

【支援先報告】

こんばんは、山本です。
本日はご来場頂き、誠にありがとうございます。
支援金シネマダイアログでの支援先の方々とも
その後の状況報告など頂いています、
みなさまにお伝える機会がすくないので、
一部、ご案内させていただきます。
スペースに限りがあるため、主に3団体を
ご紹介致します。

微力をつなげて
大きな力に。

地球交響曲

『元氣屈隊』天人グループ代表じゅんさんより

僕らは大変小さな団体で、今までこうした形で支援頂いた事はなく、
思いのあるメンバーが持ち出しで活動を続けて来ましたので
感動はひとしおです。

本日、Ustreamのほうで生中継で前回のボランティアバスツアーの報告会
を行っています。アーカイブも残りますのでそちらの報告会でもご利用下さい。

番組名は
AManTo Report from Genki-Todoketai
<http://www.ustream.tv/channel/amanto-report-from-genki-todoketai-vol-1>

最近の活動と様子です～

瓦礫はまだまだ、無限にある状態ですが、大きなフェリーや、建物は大分
片付いて来ました。遠方からのボランティアは、重機を使った解体の跡を分別、
処分場への移動が主な作業です。

大島は、かなりの細かく分別をする事で有名で、何度も参加している参加
者が多い僕らは、かなりのスピードで作業を進める事のできるスペシャリスト
になってきました。

避難された方たちは、島の三箇所の仮設住宅に移られています。
しかし年金のない若い世代の人は、逆に生活が苦しくなっています。
仮設住宅に入ると食料や物資の支援がなくなってしまい、一文無しの人が
多い津波被災者の方は途方にくれています。財産の全くなってしまった
人は仕事もなく、かといって就職する会社も島にはありません。
彼らの就労支援が今後の課題になってくるでしょう。

また、ライフラインが復旧すると、身近な人がなくなった子供やお年寄りのメ
ンタルケアが必要になってきました。今月のツアーから島の児童館で子供
達に対して、アートと音楽の出前をするというプロジェクトを始めました。島
の支援の形も多様化して行っています。

天人元氣屈隊の別プロジェクトで、先日は韓国でチャリティーイベントを開
き、被災した朝鮮学校のための義援金を届けました。その時出会ったサン
ジョン大学の学生さん達を中心に20人の韓国の方が来日、大阪で、シンポ
ジウムを開いたり、チャリティーのためのアート展を開いて下さいました。

その時、大きな紙にみんなで丸を書き復興と平和を祈るというアートがあっ
たのですが、その作品を東北に持って行き、先ほどの児童館で子供達にも
丸を書いてもらいました。11月僕らは韓国に平和を使命団を結成して、今
の東北の状態を伝え、今後の日韓協力に対するシンポジウムを行う予定
です。

また、ボランティアバスツアーは「震災の語り部を作る」というコンセプトも
持っています。単なる作業員ではなく、東北を感じて現地の方と繋がっている
人を育てるのでそのかいあって、新たな現地のニーズを見つけ出すのに
役立っています。
気仙沼への病院搬送業務や、地元ニーズの聞き取りローラー作戦への参
加、重機ファンドを作って、深ダンプやバックホーを島に提供するという
ミッションが進行中です。

島の一部で養殖のための竹組が始まりました。
しかし、そこで出来た牡蠣や昆布がどんな出来になるかはわかりません。
さらに現地の人はその風評被害も心配されています。
そこで、大阪で僕は「復興支援Bar」というものを考えていて、
売上を支援金に食材は東北の名産品を...というコンセプトの店を作ります。
9月20日大阪北区にオープンします。

まだまだ僕らに何が出来るかはわかりませんが、
丁寧に確実に、コツコツと斬新な活動を続けて行きます。

明日から仲間が和歌山に入ります。また、ご報告します。

ちょうど数日前にお電話でお話聞きました、 被災地支援歴30年、『災害救援ネットワーク北海道代表』の やんじーさんより

やんじーさんはこの30年状況の異なる様々な被災地支援を続けています。
おにも、ボランティアの受け入れ態勢を整えること。
3.11以降の東北ではその受け入れが比較的早く整っていたので、次の
ニーズ、つまり「食べ物が無い」ということで炊き出し部隊を続けました。
その量、500/屋と500/夜＝1000食/1日、
13000食/3月まで。43000食/4月までの量です。
そして炊き出しのやり方は、被災地の人たちと一緒に作り、食べ、話を聞き、
片付けるという過程の中で人間関係や地域コミュニティも大切にしている事。

100円からでも支援金を何に使ったかホームページで記載。
立って食べるのがしんどそうな年配がいれば椅子と机をなど、
日々の会話と日々変わる現状に合わせて必要なものを購入する。

北海道内のチームやんじーの支援センターがあり、各地で支援金や
食材を集めてもらって、車やフェリーで持っていく。ガソリン代など足りない
ことが多いで、年金つっこんでやっているそうです。

いまは食中毒の問題があるので、炊き出しはせず、水、米、しょうゆ、
砂糖などを仮設住宅一軒一軒配って歩いているとのこと。年配の方々は移動
手段がない上、売っているところもないので、「1週間ぶりの水です」などが現状。
細やかに目が届くような支援はまだまだ持続的に必要なことが、
話を聞いていて、改めて感じました。

活動報告はまめに更新されますので、是非チェックしてみてください。
<http://mouth-mountain.greenwebs.net/>

『日本の森バイオマスネットワーク』の唐澤さんより

支援活動の状況についてご報告させていただきます。

●手のひらに太陽の家プロジェクト

地元の木や自然エネルギーを使って、震災遺児や高齢者などの被災者の中
でも社会的な弱者が住むことのできる共生住宅を作ろうというプロジェクト
です。アウトドアメーカーのモンベルが第1棟目のスポンサーとなることが決
定し、宮城県登米市に建設地が決定しました。現在は最終的な設計を固めて
いる段階で、年明けの1月には入居ができるように建設と入居者の募集を
進めていこうとしています。完成後も運営資金が必要になるため、「手のひら
に太陽の家基金」の受付をしております。

<http://ifbn.org/taiyounoie>

<http://ifbn.org/donate>

●南三陸町歌津地区復興支援プロジェクト

津波で壊滅的な被害を受けた南三陸町の歌津という地区での復興支援のプ
ロジェクトを進めています。8月の時点で仮設住宅が完成し避難所は解散し
たものの、漁業や商業の再開、集団で移転するまちづくりに向けた合意形成
など課題は山積みです。バイオマスネットワークとしては現在大型のテントを
利用した仮設商店街の設置や漁業再開の支援、情報発信等を行っており、
将来的にはエコタウンとしての復興が実現できるようにお手伝いを進めてい
きたいと思えます。

被災地ではやっとな津波のガレキが片付きましたが、これからどうやって生活
やコミュニティを再建していくのか希望が見えずに皆さん不安を抱えて過ご
しています。本格的な復興には5年、10年と掛かるのでしよから、震災のことを
忘れずに長期的にご支援いただければ幸いです。

その他、

『つながり・ぬくもりプロジェクト』に関しては、当時の現状をお聞きして
「太陽光発電によるエネルギー支援」に支援金をあて、

『ヒューマンシールド神戸』の吉村さんは日々の活動報告を見る
につけ本当に頭が下がる思いです。

<http://williamseiji.wordpress.com/>

『オンザロード』事務局の岡本さんからは、
私たちの活動でも、状況により課題が変動しているの、
今後も迅速な対処が出来るよう、復興に全力であっていきたく思います。
支援内容は、現地レポート <http://ontheroad.weblogs.jp/>
活動報告書 <http://www.saigaishien.jp/report/>
の中で報告していますので、確認してみてください。

小さい字で大変申し訳ありませんが、支援先一部報告でした。